

はん げ しょう
半 夏 生

今年の半夏生は、7月2日10時38分にあたる。

明治以前は、一般に太陰暦が用いられていたために、気候の移り変わりと暦とが一致しないため、農作物の耕種の目安には24節気というものを用いられていた。ちなみに24節気中、今日でもしばしば人の口に登るものには、小寒、大寒、立春、春分、夏至、立秋、秋分、冬至などがある。

半夏生は、この24節気中には入っていないで、雑節に属するが、太陽が夏至から10度廻った所にくる時で、正に太陽暦であることは、24節気と異なる。梅雨あけに近く、田植えの終期とされ、丁度この頃半夏という雑草が生えるという。半夏は、すなわちカラスビシャクである。日本植物調節剤研究協会の日本原色雑草図鑑によれば、ヘソクリ、ヘブス、スズメノハコベ、スズメノオハグロ、キツネノロウソク、クリクナ、フルコナなどの名があり、牧野博士の新日本植物図鑑には、畑地に侵入するとその駆除は非常に困難とある。たしかに、除草剤の発達した今日でも、その駆除は非常に困難である。

種子から発芽して来る各種の雑草も1~2葉期には除草剤で容易に駆除できるが、これより手おくれとなると困難になる場合が多い。半夏生は、田植えの終期とされているが、除草剤施用時期の目安ともならないものであろうか。

財団法人 日本植物調節剤研究協会会長
河 田 党

目 次

世界の除草剤の動向 (6)

— 完 結 編 —

科学技術庁科学審議官

農学博士 石倉 秀次…………… 2

八郎潟干拓地における

多年生雑草防除の現状と今後の問題

八郎潟入植指導訓練所

主任指導員 石山 巖…………… 5

温州ミカンの薬剤摘果

農林省園芸試験場興津支場

果樹第2研究室

山本 正幸…………… 10

北陸地方における除草剤の

普及状況と今後の問題点

石川県稲専門技術員

北野 弘…………… 18

茶業試験場茶樹第3研究室長

青野 英也…………… 22

植調協会だより…………… 24

お わ び

第3巻第3号にも、受賞者の横顔を掲載する予定でしたが、原稿が間に合わず次号に掲載することにいたしました。何とぞご容赦下さい。